



福岡医発第291号（地）
平成26年4月28日

各 医 師 会 長 殿

福岡県医師会
会長 松田 峻一良
(公 印 省 略)

安全情報「警鐘事例」の提供について

標記の件につきましては、平成25年5月14日付け福岡医発第511号（地）で「診療行為に関連した死亡の調査分析モデル事業」において評価が終了した事例のうち、特に医療現場に情報提供すべき内容を含んだ重要な3事例をお知らせしておりましたが、今般、№4「フォンレックリングハウゼン病における血管破綻のリスク」について新たに日本医療安全調査機構より福岡県保健医療介護部医療指導課を通して情報提供されましたので、お知らせいたします。

つきましては、同様の事例が発生しないよう、貴会会員へ周知方ご高配賜りますようお願い申し上げます。

なお、

- 1) 「警鐘事例」は、機構ホームページ (<http://www.medsafe.jp/>) に掲載してありますので、「評価結果報告書の概要版」と併せてご活用ください。
- 2) メールでの配信をご希望される場合は下記連絡先にお問合せください。

記

日本医療安全調査機構 中央事務局
TEL : 03-5401-3021 FAX : 03-5401-3022
E-mail : chuo-anzen@medsafe.jp

公印省略

25医指第511号-2

平成26年3月7日

公益社団法人福岡県医師会長
一般社団法人福岡県歯科医師会長
公益社団法人福岡県病院協会
社団法人福岡県私設病院協会
一般社団法人福岡県精神科病院協会
公益社団法人全国自治体病院協議会福岡県支部長

殿

福岡県保健医療介護部長
(医療指導課)

安全情報「警鐘事例」の提供について

本県の保健医療行政につきましては、平素から格別のご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

今般、一般社団法人日本医療安全調査機構から別添（写）のとおり情報提供がありましたのでお知らせします。

なお、上記医療安全情報を含め一般社団法人日本医療安全調査機構の「警鐘事例」は同機構のホームページ（<http://www.medsafe.jp/>）に掲載されておりますので、「評価結果報告書の概要版」と併せてご活用くださるとともに、貴会会員に対し周知していただきますようお願いいたします。

【担当】

医療指導係 長田

TEL 092-643-3274

FAX 092-643-3277



平成 26 年 3 月 3 日

都道府県
医政主管部（局）長 殿

一般社団法人 日本医療安全調査機構
代表理事 高 久 史 磨

安全情報「警鐘事例」のご案内

平素より「診療行為に関連した死亡の調査分析モデル事業」にご理解ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

本事業は、診療行為に関連した死亡について原因を究明し再発防止の提言を行うことにより医療の質と安全の向上を図ることを目的としています。現在は 12 の都道府県において厚生労働省の補助事業として運営しており、全国での実施に向けて検討しているところです。

この度、本事業で評価が終了した事例において、特に医療の現場に情報提供すべき内容を含んだ重要な事例を「警鐘事例（症例報告）」の No.4 としてご紹介することと致しました。

今回の警鐘事例では、事例より得られた病態に関する知見を「症例報告」として提供しております。

つきましては下記のとおり資料を送付いたしますので、貴職におかれましても広く医療機関や関係各所へご周知いただけますようお願い申し上げます。

また、「警鐘事例」は、機構ホームページ (<http://www.medsafe.jp/>) に掲載しておりますので、「評価結果報告書の概要版」と併せてご活用ください。

今後も医療の現場に有用な安全情報が提供できますよう内容の充実に努めてまいりますので、引き続きのご高配を賜りますようお願い申し上げます。

尚、メールでの配信をご希望される場合は下記連絡先までご一報ください。

記

- 「警鐘事例」 No.4 1 部
- 「診療行為に関連した死亡の調査分析モデル事業」リーフレット 1 部

<連絡先> 日本医療安全調査機構 中央事務局
TEL : 03-5401-3021 / FAX : 03-5401-3022
E-mail : chuo-anzen@medsafe.jp





これは「診療行為に関連した死亡の調査分析モデル事業」(厚生労働省補助事業)に申請された事例です。
「症例報告」では、事例より得られた病態に関する知見を提供しています。

症例報告 No.1

フォンレックリングハウゼン病における血管破綻のリスク

フォンレックリングハウゼン病(神経線維腫症Ⅰ型)患者の腎摘出術において、腎臓の摘出に続き、摘出部の血腫除去を始めた直後に、下大静脈が破綻し失血死に至った事例が発生しました。

【事例の概要】

フォンレックリングハウゼン病患者の腎動脈瘤破裂に対して腎動脈塞栓術を行ったため腎摘出術を施行。腎臓の摘出に続き、腎および尿管摘出部の血腫除去を始めた直後に、切開創の最下部(腎摘出部から離れた下方)より突然の大量出血あり。下大静脈等からの出血を疑い用手圧迫等により止血を試みたが、出血部位の同定が困難で止血不能な状態となり、血圧が低下し失血死に至った。解剖結果より、出血は下大静脈の破綻によるものであったことが明らかになった。

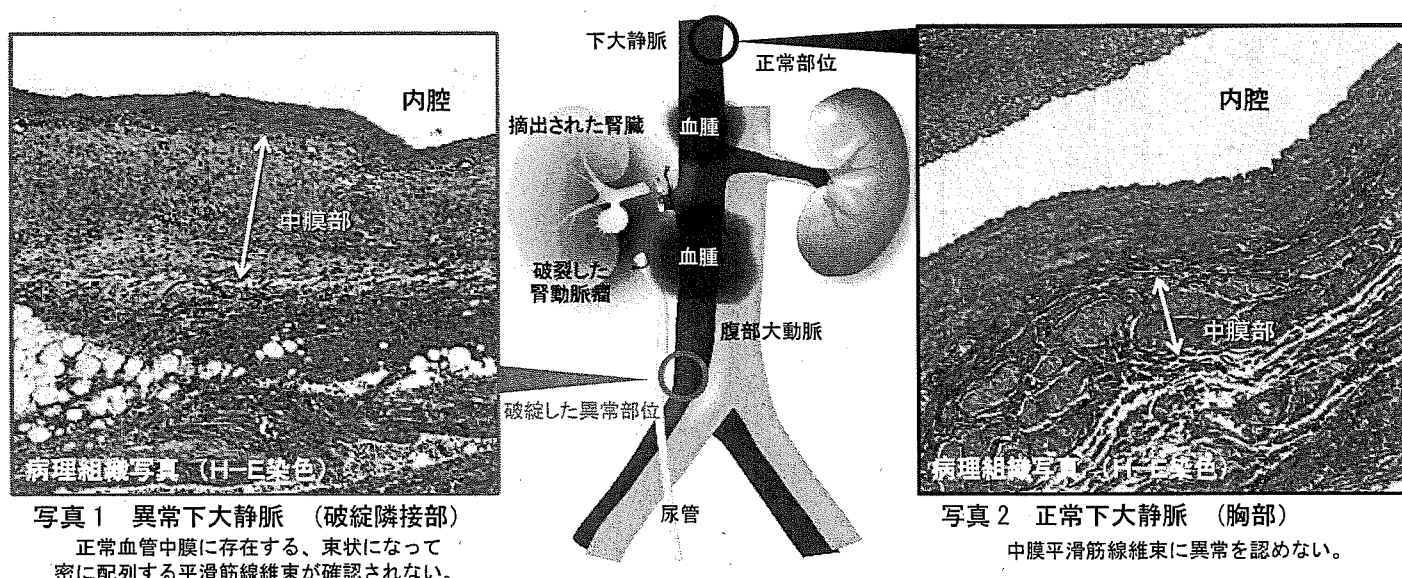


写真1 異常下大静脈 (破綻隣接部)
正常血管中膜に存在する、束状になって
密に配列する平滑筋線維束が確認されない。

写真2 正常下大静脈 (胸部)
中膜平滑筋線維束に異常を認めない。

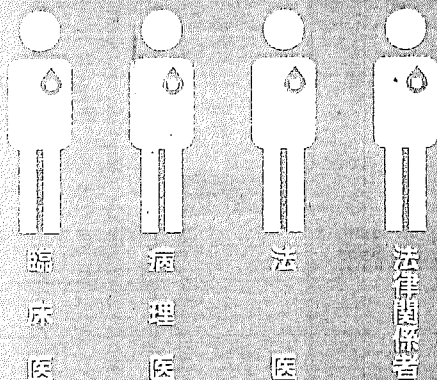
フォンレックリングハウゼン病患者の手術や侵襲的処置等を実施する際は、「血管の脆弱性」を認識した対応を

フォンレックリングハウゼン病患者の一部に、血管の脆弱化をもたらす血管病変が存在するという症例が報告されています。動脈においては、中膜平滑筋の脱落・菲薄化、弾性板の断裂、粘液様物質の沈着などにより、動脈破綻や動脈瘤を生じる可能性があり、静脈では、神経線維腫細胞の浸潤に伴う血管平滑筋の著明な減少により、わずかな外力で静脈破綻を来す場合があります。また、この脆弱性を肉眼的に判定することは困難であり、動脈、静脈を問わず止血不能な状況に至る可能性があります。血管の病変は、必ずしもフォンレックリングハウゼン病患者の全例には認められないこと、また、全身の血管が脆弱化しているのではなく正常血管と異常血管が混在していることが特徴としてあげられます(病理組織写真1,2)。

フォンレックリングハウゼン病患者に対し、大血管付近における操作を伴う手術や侵襲的処置等を実施する際は、血管の脆弱性を念頭に置き、血管の破綻のリスクを踏まえた慎重な対応が必要です。

* この事例は日本医療安全調査機構で検討した事例の中で、再発防止のため医療界への情報提供が特に必要と判断されたものです。これからの医療の質と安全性の向上のため、院内教育等でご活用ください。警鐘事例はホームページよりダウンロードできます。
* この情報は医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務・責任を課したりするものではありません。また、この内容は作成時におけるものであり、将来にわたり保証するものではありません。

当モデル事業では、診療行為に関連した死亡について、死因究明及び再発防止を目的として、中立的な立場で解剖・分析・評価します。



そして、新たなスタート

2015年に日本内科学会内臓系としてスタートした当モデル事業は、多くの可能性と、多くの期待のもと、2016年4月「一般社団法人日本医療安全調査機構」として新たにスタートしました。

「私たちはモデル事業に協力しています」

日本内科学会、日本外科学会、日本病理学会、日本法医学会、日本医学放射線学会、日本眼科学会、日本救急医学会、日本形成外科学会、日本産婦人科学会、日本産科医学会、日本耳鼻咽喉科学会、日本小児科学会、日本整形外科学会、日本精神神経学会、日本脳神経外科学会、日本泌尿器科学会、日本皮膚科学会、日本麻酔科学会、日本リハビリテーション学会、日本臨床検査医学会、日本アレルギー学会、日本感染症学会、日本肝臓学会、日本胸部外科学会、日本血液学会、日本呼吸器学会、日本呼吸器外科学会、日本循環器学会、日本消化器外科学会、日本消化器学会、日本小児外科学会、日本神経学会、日本腎臓学会、日本心臓血管外科学会、日本循環病学会、日本内分泌学会、日本リウマチ学会、日本老年医学会、日本看護学会協議会

モデル事業の詳しい内容につきましては、下記、地域受付窓口までお気軽にご相談ください。

北海道

対象：札幌市、小樽市、石狩市、江別市、岩見沢市、北広島市、恵庭市、千歳市内の医療機関
調査受付窓口：北海道医師会館内 北海道地域事務局
tel.011-206-7360 fax.011-206-7361

宮城県

対象：宮城県内の医療機関
調査受付窓口：東北大学病院内 宮城地域事務局
tel.022-274-1871 fax.022-274-1872

茨城県

対象：茨城県内の医療機関
調査受付窓口：筑波大学付属病院病理部内 茨城地域事務局
tel.029-852-5566 fax.029-852-5566

東京都

対象：東京都内の医療機関
調査受付窓口：東京地域事務局
tel.03-3434-3670 fax.03-3434-3671

新潟県

対象：新潟県内の医療機関
調査受付窓口：新潟大学医学部法医学教室内 新潟地域事務局
tel.025-223-6186 fax.025-223-6186

愛知県

対象：愛知県内の医療機関
調査受付窓口：愛知県医師会館内 愛知地域事務局
tel./fax.052-251-6711

大阪府

対象：大阪府内の医療機関
調査受付窓口：大阪府医師協同組合別館1階 大阪地域事務局
tel.06-4304-7900 fax.06-4304-7901

兵庫県

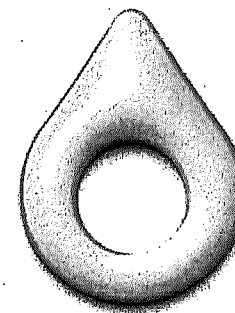
対象：西区と北区を除く神戸市内の医療機関
調査受付窓口：兵庫県監察医務室気付 兵庫地域事務局
tel.078-521-6333 fax.078-521-6334

岡山県

対象：岡山県内の医療機関
調査受付窓口：岡山県医師会館内 岡山地域事務局
tel.086-272-3250 fax.086-272-3255

福岡県

対象：福岡県内の医療機関
調査受付窓口：福岡県医師会館内 福岡地域事務局
tel.092-431-4588 fax.092-431-4606



わたしたちは
公正中立な
立場で医療の
安全を推進
いたします



一般社団法人

日本医療安全調査機構

診療行為に関連した死亡の調査分析モデル事業

<http://www.model-sa.jp/>

モデル事業の流れ

“モデル事業”について

このモデル事業は診療行為に関連した死亡の原因を専門家が調査(解剖を含む)し、同様の事例が再発しないための対策を検討するものであり、厚生労働省の補助事業として一般社団法人日本医療安全調査機構が実施するものです。

目的

診療行為に関連した死亡について原因を究明し、適切な対応策を立て、それを医療関係者に周知することによって医療の質と安全性を高めていくとともに、評価結果をご遺族の皆様及び医療機関に提供することによって医療の透明性の確保を図ることを目的としています。

“モデル事業の対象”となるのは？

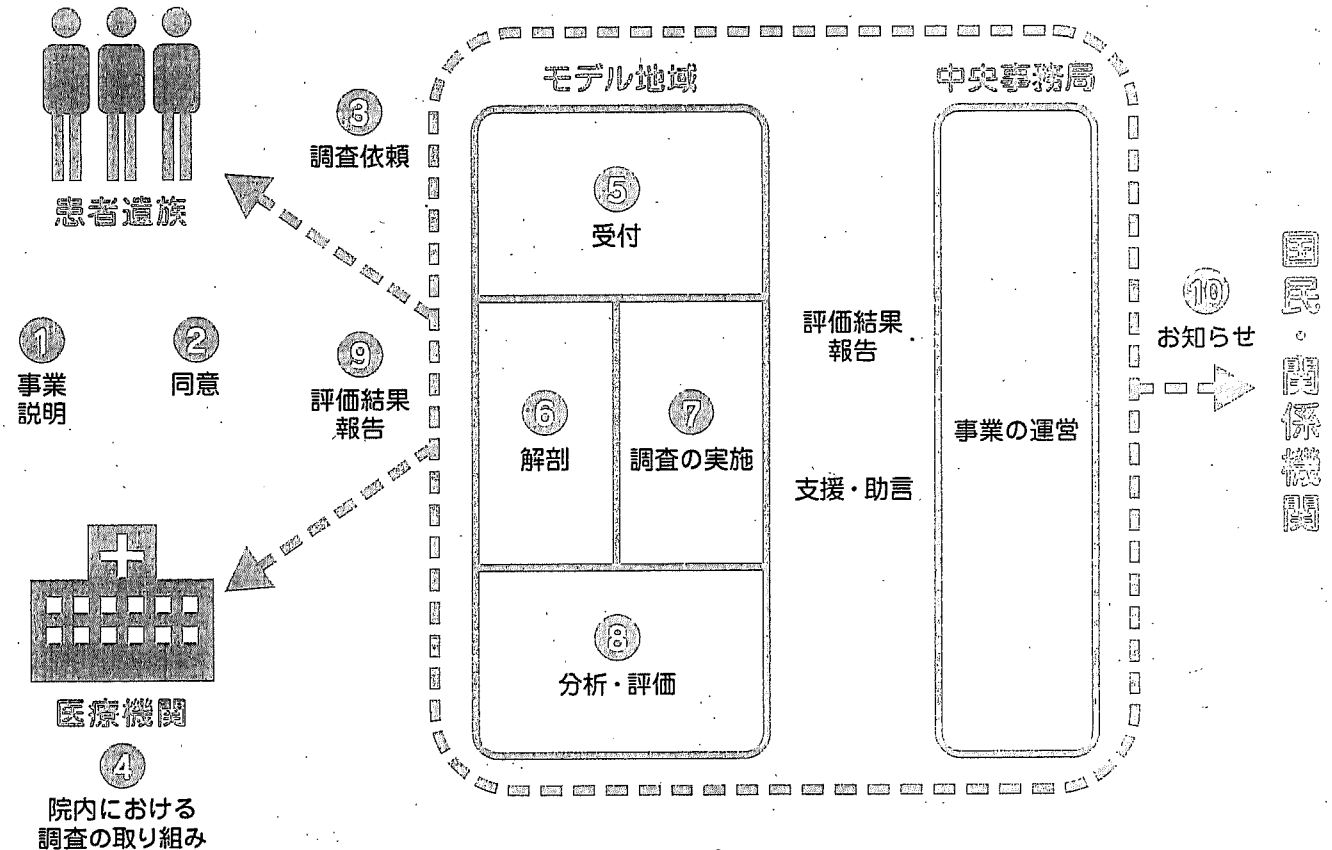
診療行為に関連した死亡について、死因究明と再発防止策を中立な第三者機関において検討するのが適当と考えられる場合です。

なお、警察署に届け出られた事例についても、モデル事業の対象となることがあります。

プライバシーに関する情報の取扱いについて

モデル事業で扱う資料の多くが慎重に取り扱われるべき個人情報であることから、資料等は厳正に管理されます。個人名、医療機関名が公表されることはありません。

なお、医療の質と安全性を高めていくために、必要な情報をプライバシーに配慮した形で関係者に説明することがあります。



①医療機関からモデル事業の説明を行います。

②患者様ご遺族から同意をいただきます。
(必要時、死亡時画像診断を活用します。)

③医療機関からモデル事業に調査を依頼します。

※モデル事業は医療機関からの調査依頼が前提ですが、ご遺族のご要望により、モデル事業窓口から、医療機関に申請を働きかけます。

④医療機関は院内の調査に取り組みます。

⑤モデル事業の地域受付窓口で受け付けます。

⑥解剖担当医(法医・病理)、臨床専門医の立ち会いの下、解剖を行います。

⑦臨床専門医による調査や聞き取りを行います。

⑧解剖結果・調査結果を踏まえ、分析・評価を行います。

⑨評価結果について、ご遺族、医療機関にご説明いたします。

⑩個人や医療機関のプライバシーに十分配慮した上で、必要な情報を国民・関係機関にお知らせします。

※地域毎の手続きの詳細については、それぞれのモデル地域事務局にご確認ください。